

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ 会員寄稿記事.....	7
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ.....	10
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介.....	11

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献」国際シンポジウム 開催案内(11/28・京都)

1. 「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献」国際シンポジウムの開催目的

近年の世界経済における安定は、後発発展途上国の経済発展の基盤作り、新興国の世界経済の牽引、さらに先進国の経済再生が必要であると言われていています。それらを下支えするためにはインフラ整備・管理などが重要です。

日本は、高度経済成長期以降の防災や環境を配慮するといった総合的なインフラ技術の発展に支えられて急激な経済成長を経て成熟社会に至りました。この日本のインフラ技術に支えられた歩みは、発展途上国の更なる発展、先進国の経済再生のための参考になると考えられます。

この日本のインフラ技術の中でも、河川インフラ技術は、高度な治水・環境保全・利水等に利用され、発展させてきました。

これらの実績や知見を世界に発信するために、11月末に京都で開催される世界工学会議にあわせて、日本を始めとする各国のエンジニアとともに防災・環境に配慮した河川技術の取り組みについて、国際シンポジウムを開催し、各国の河川技術の専門家や関係者との意見交換の場を提供することを目的として開催するものです。

※本国際シンポジウムには、11月29日(日)より開催される『世界工学会議 (WECC2015)』への参加登録の有無に関わらず、どなたでも無料でご参加頂けます。

2. 開催諸元

本シンポジウムの開催諸元は以下の通りです。

日 時：2015年11月28日(土) 9:00~18:00
 会 場：国立京都国際会館, Room-H
 参 加 料：無料(※左下参照)
 定 員：約120名
 使用言語：日本語・英語(同時通訳予定)
 URL：<http://river-innovation.net>

3. プログラム

シンポジウムは以下の3セッションで構成されます。プログラムの詳細は、ウェブサイトをご確認ください。

- セッション I：
河川・水域の防災・減災に関する基調と一般講演
- セッション II：
河川環境・水利用(利水/親水)に関する講演
- セッション III：
社会貢献の視点からの災害と環境に関する河川整備・管理についてのパネルディスカッション

4. 参加申し込み

現在、シンポジウムの参加者を募集しています。本シンポジウムへの参加申し込みにあたっては、事務局宛の E-mail (river-innovation@rfc.or.jp) もしくは FAX (03-3253-0640) にて、**ご氏名、ご所属、ご連絡先**を送付ください。

参加をご希望される方は、早めの申し込みをお願いします。(JRRN 事務局・伊藤将文)

第18回 国際河川シンポジウム (9月/オーストラリア・ブリスベン) 参加報告

今年の国際河川シンポジウム(The International Riversymposium)が、オーストラリア・ブリスベンにて2015年9月21日~23日に開催されました。

本年は、JRRNが所属するアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)として特別セッション「アジアの河川再生」を9/22(火)に本シンポジウム内で開催し、合わせてシンポジウム主催団体である国際河川財団(International Riverfoundation)とARRNとの今後の連携に向けた協議を目的に、JRRN事務局から3名が出張して参りました。

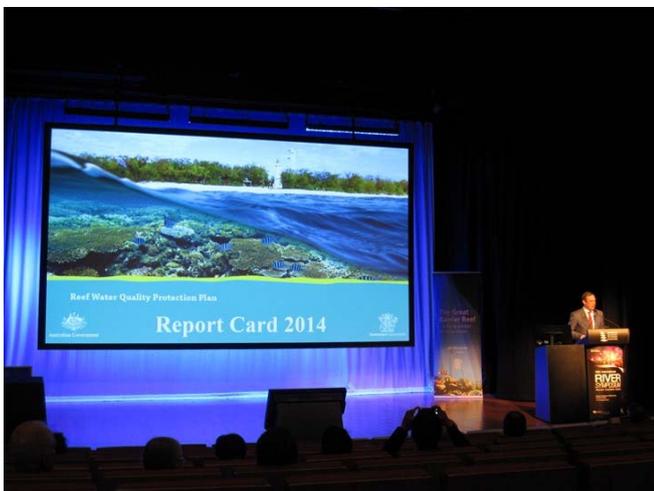
現地での活動概要を簡単に報告させていただきます。

■国際河川シンポジウムとは？

オーストラリア政府系 NGO「国際河川財団」が主催し1998年から始まり、河川再生に関わるオーストラリア国内及び世界の成功事例を、河川再生の担い手である様々なセクター関係者で共有し、河川及び流域の生態的・社会的価値をより高めることを目標とする行事です。本年は「Healthy Rivers – Healthy Economies (健全な川と元気な経済)」を主テーマに約40カ国から河川に関わる NGO、政府、民間企業等の関係者が参加しました。

また、本シンポジウムでは、「国際河川賞(International Riverprize)」「オーストラリア河川賞」「ニュージーランド河川賞」として優れた河川再生活動が毎年1つ表彰され、本分野で名誉に当たる賞の一つとして世界的にも認められています。

ホームページ(英語): <http://riversymposium.com/>



Hon Dr Steven Miles 氏 (クイーンズランド州・環境大臣)
によるシンポジウム開会式での基調講演

【1】国際河川財団と ARRN メンバーの意見交換会



国際河川財団幹部と ARRN メンバーの意見交換会

9月21日(月) 午後、国際河川財団と ARRN の今後の連携に向けた意見交換会を行いました。

国際河川財団からは CEO の Nick 氏に加え、親善大使を務める歴代の国際河川賞受賞者である Alastair Driver 氏 (英国・テムズ川)、Amos Brandeis 氏 (イスラエル・Alexander 川)、Johnny Sundstrom 氏 (アメリカ・Siuslaw 川)、Philip Weller 氏 (オーストリア・ドナウ川) が参加しました。また ARRN からは ARRN 会長の Suk Hwan JANG 教授、JRRN より3名、KRRN より2名が参加しています。

意見交換では、各参加者からの自己紹介に続き、今後の連携強化に向けたアイデアの交換、また来年にアジア初開催となる第19回国際河川シンポジウム(9/12-14@インド・ニューデリー)での準備等について話し合いました。



The world's leading conference on rivers and basins is on the move!

The 19th International Riversymposium will be held in New Delhi, India, in September 2016 with an overarching theme of GREAT RIVERS OF THE WORLD: MANAGEMENT FOR SHARED BENEFITS. For some of the world's most populous cities and regions, this is a topic of great urgency.

Accomplished speakers and international experts will gather with community representatives, scientists, policy makers, business and river professionals to discuss the delicate balance between economic development, environment and communities. Registrations open early 2016. We are seeking expressions of interest now. If you want to be part of this extraordinary event, please contact public@riverfoundation.org.au

第19回案内チラシ

2016.9.12-14

インド・ニューデリー開催



【2】ARRN 主催セッション「アジアの河川再生」



ARRN 会長 (Suk Hwan JANG 氏) 開会挨拶



会場の様子

9月22日(火)午後にはARRN主催特別セッション「アジアの河川再生」を開催し、河川再生に関わる話題提供として、JRRNより2講演、韓国より3講演を紹介し、参加者との意見交換を行いました。



JRRN 事務局からの講演

JRRNからの二つの講演に対しては、オーストラリアの自治体やNGO、またフィリピンや香港の参加者より質問があり、日本での行政による長年の経験や市民による熱心な取組みを参考に、それぞれの国においても新たな取組みを試行していきたいとのご意見を頂きました。



セッション終了後のARRN関係者での記念撮影

「アジアの河川再生」 River Restoration in Asia

- 日時： 2015年9月22日(火) 14:00-15:30
- 会場： ブリスベン国際会議場 Room P9
- プログラム：
 - ①水辺の小さな自然再生～日本の事例紹介(JRRN・和田)
 - ②自然河川での藻類繁茂を抑制するためのEPPボールを活用した光触媒の評価(KRRN・Jin Cul JOO)
 - ③水都・東京の川と水路の記憶(JRRN・後藤)
 - ④韓国における干ばつ救世主としての台風役割(KRRN・Ji Young Yoo)
 - ⑤漢河における潜り堰と潮位による河床と水位変化(ARRN会長/KRRN・Suk Hwan JANG)

※英語プログラムは以下よりご覧頂けます。

<http://riversymposium.com/program-2015/special-sessions-2/asian-river-restoration-network/>

【3】「国際河川賞」等の授賞式式典



「国際河川賞 2015」受賞者のスピーチ

9月22日(火)夜には本シンポジウムのメインイベントでもある各種河川賞の授与式が執り行われました。

<p><i>Award Finalists</i></p> <p>2015 MORGAN FOUNDATION NEW ZEALAND RIVERPRIZE FINALISTS</p> <p></p> <p>Aorere River, Tasman</p> <p>Lake Taupō, Waikato</p> <p>Manawatū River, Manawatū</p> <p>Project Twin Streams, Waitakere</p>	
<p>2015 AUSTRALIAN RIVERPRIZE FINALISTS</p> <p></p> <p>Macquarie River, NSW</p> <p>Murray River, South Australia</p> <p>Lake Meallup, Western Australia</p>	
<p>2015 THIESS INTERNATIONAL RIVERPRIZE FINALISTS</p> <p>THIESS</p> <p>Lake Eyre Basin, Australia</p> <p>River Mur, Austria</p> <p>Jordan River, Jordan, Palestine & Israel</p>	

2015年の「ニュージーランド河川賞」「オーストラリア河川賞」「国際河川賞」の最終選考進出河川と各賞のスポンサー

各賞の最終選考進出河川の動画による紹介に続き、各賞のスポンサーより本年の最優秀河川の発表がなされました。

本年の国際河川賞には、2001年以来となる開催国・オーストラリアの団体によるEyre湖流域再生の取組みが選ばれました。国際河川賞最終選考に進出した3河川の概要は以下よりご覧になれます。(英語)

→ http://www.riverfoundation.org.au/riverprize_international.php

本シンポジウム参加者との交流では、優れた河川再生の経験を蓄積している日本の団体に対する国際河川賞応募への期待の言葉も多数頂きました。また前日の国際河川財団の歴代最優秀河川受賞者との交流でも、国際河川賞の獲得に向けた様々な助言(様々なセクターでの協働成果であることが大切、単年ではなく複数年応募し続けることが必要 etc.)を頂戴しました。

いつか日本の河川が国際河川賞を受賞することを目指し、JRRNとして海外関係者との交流を深めながら、国際河川賞に関わる様々な情報を国内に発信して参ります。

【4】ブリスベン川の紹介

本年のシンポジウムはブリスベン川沿いに位置するブリスベン国際会議場にて開催されました。会議の合間にブリスベン川を視察しましたので、写真で川の様子をご紹介します。

なお、ブリスベン川は2011年1月の豪雨で甚大な洪水被害を受けました。同年11月に東京で開催したARRN/JRRN主催「第8回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」では、この洪水被害についても報告頂きましたので、講演資料や講演録は以下よりご覧になれます。

■ARRN/JRRN 主催「第8回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」講演

『2011年ブリスベン川洪水被害への対応及び豪州政府が取り組む河川・湿地管理と再生』

※講演資料や講演録は以下よりご覧頂けます。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/117>



市内中心部の様子



住宅地を流れるブリスベン川



柵の無い水辺



マングローブ林



船着き場



溺れている人を見かけた場合の警報システム



無料の遊覧船



水面に迫り出した自転車道



船着き場

以上、本年の国際河川シンポジウムの概要をご紹介させて頂きました。

約 20 年に渡りオーストラリアが築いてきた河川再生ネットワークと ARRN が連携することで、本分野の相互の知見の共有と協働が促進され、JRRN を含む ARRN メンバーにとっても様々なメリットを生み出せるよう、引き続き関係機関との技術交流に努めて参ります。

(JRRN 事務局・和田彰)

小さな自然再生普及プロジェクト進捗報告 – 現地研修会 & ホームページ構築

JRRN では今年度、「小さな自然再生」事例集編集委員会の協力を得ながら、過年度成果の事例集を全国に普及するとともに、本分野の情報交換や交流のコミュニティを構築し、小さな自然再生の仲間と裾野を広げるための普及促進活動を実施中です。

2回の現地研修会及び現在制作中の「水辺の小さな自然再生」ホームページについて報告致します。

(1) 9/8 開催『第1回「小さな自然再生」現地研修会@豊田市岩本川』簡易報告書を発行



2015年9月8日(火)に愛知県豊田市の矢作川研究所及び岩本川にて開催しました『第1回「小さな自然再生」現地研修会』の簡易報告書が完成しました。

この開催報告は、小さな自然再生の技術や協働の進め方について研修会の参加者とともに学び議論した内容の一部を、当日の写真を中心に皆様にご紹介するものです。

報告書は以下よりダウンロードできますので、当日ご参加頂けなかった皆様にもご活用頂ければ幸いです。

- 「第1回 小さな自然再生現地研修会@豊田市岩本川 開催報告」(2015年10月発行)はこちらから <http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/120>

(2) 11/2 開催『第2回「小さな自然再生」現地研修会@滋賀県高時川』開催



2015年11月2日(月)に滋賀県高時川にて『第2回「小さな自然再生」現地研修会』を開催しました。

当日は滋賀県長浜土木事務所及び滋賀県土木交通部流域政策局の協力のもと、45名が研修会に参加し、座学と現地視察を通じて「川の水が減ったときの魚の逃げ場づくり」を主テーマに小さな自然再生について学びました。

本研修会の成果は後日改めてご報告致します。

(3) 「水辺の小さな自然再生」ホームページ制作



本年3月に発行した「水辺の小さな自然再生事例集」でご紹介した内容加え、新たな事例や関連する情報を集めたホームページを現在制作中です。来年2月頃には皆様にご紹介できると思いますので、もうしばらくお待ちください。

なお、本活動は(公財)河川財団の河川整備基金の助成を受けて実施しています。

(JRRN 事務局・和田彰)

11月



あの日のあの川 リレー日記 ～第10話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第10話主人公 佐々木 洸

(筑波大学社会・国際学群 国際総合学類4年 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：茨城県小貝川)

「私と鴨川」

いつのこと？：小学生～大学生時代

どこの川？：鴨川

「まもなく京都に着きます、14番線到着、お出口は右側です…」

東山の長いトンネルを抜けると、アナウンスとともに車窓には懐かしいあの川の風景が広がっていたー

私は小学校低学年から浪人生時代までを京都市で過ごした。元々の生まれは茨城県であり、小学2年生に進級する春休みに京都市に引っ越してきたのだ。あの日、さまざまな思いを胸に、当時人気車両であった500系新幹線の窓から外の様子を窺っていた私の目に、山に囲まれて広がる街並みと川の風景が飛び込んできた。私が初めて京都の街、そして鴨川を目にした瞬間だった。

京都に住み始めてから中学に入る頃まで、私はたびたび週末、一家で鴨川を散歩した。鴨川の両岸は遊歩道となっていて歩きやすく、大勢の家族連れ、カップル、ランナー、そして大学生などでにぎわっていた。川を渡る飛び石などもあり、子供の散歩コースとしても退屈しなかった。私はよく、出町柳から四条通までに架かる橋の数を数えながら歩いたものだった。

ある日、どこかへ出かけた帰り道、阪急河原町駅に向かって歩いていると、弟が河川敷に落ちていた100円玉を見つけ、拾い上げた。得意げに喜んでいて弟であったが、それをポケットにしまわずずっと大切に握りしめていたのが不幸であった。その後、河川敷から川に向かって小石を投げて遊んでいたとき、弟は小石と一緒に100円玉も鴨川に投げ込んでしまったのである。我々は弟を慰めはしたが、自棄になった弟は皆の馬鹿――！！などと泣き叫んでいた。

いつものように鴨川を歩いていた帰り道、この日は三条大橋近くのスターバックスに立ち寄った。珍しいごちそうであったが、よそ見をしながら歩いていた弟は段差に蹴躓いて転び、手にしていたキャラメルフラペチーノをぶちまけてしまった。この日も弟は泣きながら家まで帰ることになった。あの頃はまだ小さかった弟も、今ではただのおやじになってしまった。小学生の頃、鴨川を散歩した思い出を振り返ると、我々は必ず、あの時の弟の幼い泣き顔を思い出すのである。

中学生になると、家族総出で出かける頻度は減り、鴨川を歩くこともすこし少なくなったのではなかっただろうか。大阪の中学に入学したこともあり、京都より大阪方面に出かけることが多くなった。そんなある日の中学の遠足は、京都府立植物園から北山大橋に向かい、鴨川を四条大橋に向けて歩くというものであった。大阪や兵庫方面の生徒は初めてだったかもしれないが、これは我々がかつて何度も通った散歩ルートであり、私なんかは遠足といっても全然新鮮味が無いななどと思っていた。ちょうど、鴨川を歩くのにも飽きてきた頃であった。

高校生になると、また京都のほうへ足を運ぶことが増えた。いつも大阪へ出かけているからか、時たま京都のほうへ来てみると、一度は飽きてしまった風景も違って見えた。確かに、高校の最寄駅の駅前のごちゃごちゃしていて風俗店なども立ち並び、あまりガラの良い雰囲気ではなかった。鴨川へ来ると、まだ幼かった頃の思い出が蘇り、心のどこかに懐かしさのようなものも感じていたのかもしれない。あるいは、大学では東京に行く決めていたからかもしれない。今のうちに京都を楽しんでおこうと思っていたのだろうか。友達と遊ぶ約束はできるだけ京都でするようになった。

高校卒業後、なぜか私は東京の大学生ではなかった。さらに言えば、大学生ですらなかった。残念ながら、受験戦争に敗れ去ったのであった。私は、予備校は京都に通うことにした。というわけで、京都でもう一年、浪人生としての生活が始まった。予備校には幸いにも高校の仲間が大勢“進学”していた。我々の仲間は毎週日曜日の夕方、予備校の玄関を出るとまっすぐ家へ帰らずに、丸太町通りを鴨川へ向かい、河川敷を四条大橋まで歩いた。試験本番はかなり先のことであったので、必死さはまだあまりなく、あったのは、京都で初めて学生(?)をしている新鮮さであった。歩きながらしていた話の内容は、くだらなすぎて思い出せない。

ある日、いつものように仲間と鴨川を歩いていると、私の携帯電話に一通のメールが届いた。それは小学生の頃、同級生であった S さんからであった。彼女とは小学校卒業以来、一度も会うことができなかった。どうやら彼女も今、同じ予備校に通っているらしい。私は心臓が高鳴るのを感じていた。ところが、狭い予備校なのに中々偶然の出会いには訪れなかった。メールによれば、彼女は度々私を目撃していたようだが、小学生の頃から比べ、背が高くなりすぎて威圧感があり、中々声かけられないという。確かに当時から私の身長は180 cmを超えていて、教室内の狭い通路ですれ違う際、相手に謝られることが多かった。結局、大学受験を終えて京都を後にするまで、彼女と出会うことはできなかった。

先月、大阪に所用があり、久々に京都を訪れることになった。筑波大学入学後、やはり京都は良かったなどと、もっと京都を味わっておかなかったことを後悔していた私は、友達に会いに、度々京都や大阪へ出かけていたが、この時は二年近く間が空いていた。また京都へ行きたいという気持ちがあったのだろう。用事が済んだら京都に寄って、久しぶりに散歩でもしてみようかな…。そんなことを考えていると、やがて最新型 N700 系新幹線が減速を始めた。

「まもなく京都に着きます、14 番線到着、お出口は右側です…」

東山の長いトンネルを抜けると、アナウンスとともに車窓には懐かしいあの川の風景が広がっていた—

(次は鴨志田穂高さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.78

岡村幸二 (JRRN 会員)

武蔵嵐山：

嵐山渓谷の河原に広がる岩畳 対岸の斜面地には奥深い緑が



撮影：2015年10月（埼玉県・比企郡嵐山町）

◆嵐山町名発祥の地

「武蔵嵐山」は小京都嵐山の町名発祥の地であり、槻川の清流、岩畳の河原、まわりの木々が織りなす川と緑のみごとな自然景観が見られます。休日ともなれば渓谷の川遊びやバーベキューなどを楽しむ家族や若者グループでいっぱいです。

◆さいたまの緑トラスト保全地

大平山に続く緩やかな斜面地が、槻川の流れと一体になって魅力的な景観をつくり出しています。休養地には「オオムラサキの森活動センター」などが整備されています。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ (2015年10月末まで提供分) Information from member

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第 18 回河川生態学術研究発表会 (11/6 開催)

(公財)リバーフロント研究所から本年の河川生態学術研究発表会の案内です。



■ 日時 : 2015年11月6日(金)
10:30~17:00

■ 場所 : 東京証券会館ホール
(東京都中央区)

■ 参加費 : 無料

◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2231.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第 187 回 河川文化を語る会 (11/19 開催)

(公社)日本河川協会から河川文化を語る会のご案内です。

■ テーマ:「飛鳥時代から生き続ける狭山池」

■ 講師: 植田隆司 氏 (大阪府立狭山池博物館副館長)

■ 日時: 2015年11月19日(木)
18:30~20:30

■ 場所: エル・おおさか

◆ 詳細は以下参照

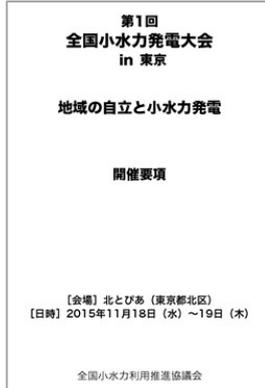
<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2238.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第 1 回全国小水力発電大会 in 東京 (11/18,19 開催)

小水力発電の国内最大イベント「第1回全国小水力発電大会 in 東京 - 地域の自立と小水力発電」が東京都北区の北とびあで開催されます。



■ 日時: 2015年11月18日(水)、19日(木)

■ 場所: 北とびあ (東京都北区王子1-11-1)

■ 参加費: 3000円

◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2244.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ ミツカン水の文化センター第 22 回里川文化塾『関宿で学ぶ、江戸時代の舟運と産業』(11/7 開催)

ミツカン水の文化センター一里川文化塾の案内です。

■ 日時: 2015年11月7日(土) 9:30~17:00

■ 場所: 関宿城博物館

■ 参加費: 無料

■ 募集人数: 25名程度

■ 主催: ミツカン水の文化センター

◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2228.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

■ 第 12 回柿田川シンポジウム『柿田川、そのもたらすもの: 実質的な恩恵, やすらぎ, くつろぎ』(11/8 開催)

(公財)リバーフロント研究所から柿田川シンポジウムの案内です。



■ 日時: 11月8日(日)
13:30~17:00

■ 場所: ホテル・エルムリージェンシー (静岡県駿東郡清水町)

■ 参加費: 無料

◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2241.html>

【海外からの提供情報】

■ 「RRC (英国河川再生センター) 最新ニュースレター」ご紹介

RRC (英国河川再生センター) の最新会報 (2015年10月号) が事務局より届きました。

本号では、来年4月RRC年次講演会、RRCホームページへの住民参加ページ創設などの話題が紹介されています。



◆ 詳細は以下参照

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2249.html>

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■ 防災シンポジウム『世界の水・日本の水、最新動向』

- 日時：2015年11月6日(金) 14:00~15:30
- 主催：特定非営利活動法人日本水フォーラム
- 場所：TKP赤坂駅カンファレンスセンター(東京都港区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2250.html>

■ 平成27年度いい川づくり研修会-第3回 東予地区

- 日時：2015年11月10日(火) 10:30-16:00
- 主催：東予環境グループ&鞆瀬塾
- 場所：桜樹公民館2階ホール(愛媛県西条市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2225.html>

■ 自然再生フォーラム「激甚災害後の砂浜植生の再生と保全」

- 日時：2015年11月14日(土) 13:00-17:00
- 主催：(一社)日本生態学会生態系管理専門委員会
- 場所：東北学院大学土樋キャンパス(宮城県仙台市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2223.html>

■ 第15回九州「川」のワークショップ in 諫早

- 日時：2015年11月14日(土)~15日(日)
- 主催：第15回九州「川」のワークショップ実行委員会
- 場所：諫早市中央公民館(長崎県諫早市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2180.html>

■ 阿武隈川の再生を考えるシンポジウム

- 日時：2015年11月14日(土) 13:00~16:00
- 主催：阿武隈川にぎわいプロジェクト
- 場所：こむこむ「わいわいホール」(福島県福島市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2258.html>

■ 第3回 カヌーでつなぐ「琵琶湖・淀川流域圏」

- 日時：2015年11月21日(土) -23日(月)
- 主催：琵琶湖・淀川流域圏連携交流会
- 場所：淀川流域
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2207.html>

■ 第5回 遠賀川中島自然再生研究会

- 日時：2015年11月26日(木) 13:30~16:30
- 主催：応用生態工学会福岡
- 場所：遠賀川水辺館2F めだかホール(福岡県直方市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2244.html>

■ 「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献」シンポ

- 日時：2015年11月28日(土) 9:00~18:00
- 主催：シンポジウム実行委員会
- 場所：国立京都国際会館(京都府京都市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2227.html>

書籍等の紹介

Publications

■ できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集 (2015.3 発刊)

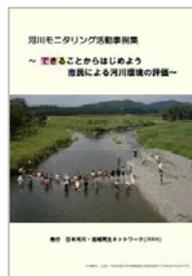
- ・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問
- ・編集：「小さな自然再生」事例集編集委員会
- ・デザイン：中野由佳 鶴川女子短期大学
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2015年3月



市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集です。小さな自然再生の専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で協働制作しました。

■ 河川モニタリング活動事例集~できることから始めよう 市民による河川環境の評価~ (2014.3 発刊)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授 (JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■ 上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

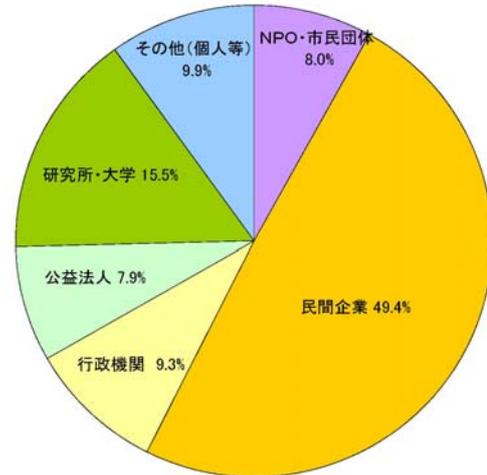
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週1回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2015年10月31日時点の個人会員構成
(個人会員数：719名、団体会員数：56団体)

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階 (公財)リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

